

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 7名回答、回答率100 %

保護者様： 25名回答、回答率 80 %

職員の意見

○環境・体制整備

・法的な基準は満たしてはいるが、活発な児童も多いため場合によっては狭く感じることもある。その中でも運動ができる場所と学習など落ち着いて過ごす場所をカラーテープで分かりやすく分けることで過ごしやすい環境づくりを行うことができている。

○業務改善

・学校の下校時間によっては業務前ミーティングの時間を確保することが難しい事もある。ミーティングとして時間を設けることが難しい場合は、必要な連絡事項についてそれぞれコミュニケーションをとり情報共有をすることができている。また、定期的に心理士を交えて支援方法について検討する機会も設けてより良い支援が行えるように心がけている。

○適切な支援の提供

・半年以内に1回は個別支援計画の更新を行い、保護者の方の意見も取り入れながら、利用者の状況に合わせた目標や支援内容の設定を行っている。また、アセスメント作成時や作成後に職員間で話し合いの機会を設けることで、同じ方向を向いて支援を行えるようにしている。

○関係機関や保護者との連携

・送迎時に保護者へ利用者のその日の様子についてお伝えしている。
児童単独で事業所への行き来を行っている場合には、送迎時の保護者へのフィードバックの時間をとることが難しいため、サービス提供記録に様子を詳しく記載するように心がけている。また、地域の自立支援協議会へ定期的に参加している。

○保護者への説明責任等

・療育のプログラムについては毎月ニューズレターを発行しお知らせしている。契約時には利用開始前後でギャップが無いよう、教室としての取り組みを詳しくお伝えするように努めている。

○非常時等の対応

・毎月1回、1年を通して各曜日に2回ずつ実施することで、登録している利用者全員が避難訓練に参加できるように工夫している。また、職員に向けて虐待防止や身体拘束適正化について年2回以上の研修を行っている。これらを実施することで、普段の支援について振り返りより良い支援は無いか考える機会を設けている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・刺激が少なく清潔な環境を作ることができている。また、約8割の方から「環境・体制面について」適切であるとご回答いただけた。その一方で、どの職員が何の資格保有者なのか分かったら良いというご意見をいただいた。スタッフ一覧表や周知方法の見直しを検討していきたい。

○適切な支援の提供

・約9割の方から、利用者の特性に合わせた支援を受けることができているとご回答いただけた。その一方で、放課後児童クラブや児童館等の地域の子供と交流できる機会は設けることができていない。同法人の他事業所との交流の場は設けることができているため、今後も継続して行っていきたい。

○保護者への説明等

・支援面での説明については満足しているという回答をいただいた。また、連絡帳をWebで見れるようにしてほしいとご意見をいただいた。現在は保護者と教室とで利用者の状況を十分に共通理解を持っているが、活動の様子についてより知っていただくためにブログの活用を進めていきたい。

○非常時等の対応

・非常時の対応や避難訓練、マニュアルについて、8割以上の方から理解できているとご回答をいただいた。引き続き、毎月の訓練や緊急時対応について周知していきたい。

○満足度

・9割以上の方から、安心感をもって通所できている・支援に満足しているとお答えいただけた。今後も安心して楽しく通っていただける教室であり続けられるよう、支援を継続していきたい。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・定期的に課外活動を企画・実行する。
- ・前期後期で保護者会や療育参観を実施し、実際の教室の様子を見る機会を設ける。
- ・サービス提供記録だけでなく、ブログやメールなどを活用し、具体的に教室で実施している活動を発信して、開けた教室作りに努める。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・昨年度よりも療育活動の幅を広げることが出来たが、曜日によっては領域の偏りが見られる月もある。そのため、今後はもっとバランスの取れたプログラム作成を行う。また、来年度も新しいプログラムを取り入れることで、より一層、支援や活動の幅を広げていきたい。
- ・前期後期で保護者会や療育参観を実施することができた。
- ・保護者とメールでのやり取りは行えたが、ブログの活用はできていなかった。教室のことをもっと知ってもらうためにも、外部に向けた発信を行っていく。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・利用者の支援だけでなく、保護者へ向けて定期的な面談や助言を行うことが出来ている。お子様の状況について共通認識をもって支援を行うことが出来ていた。
- ・活動プログラムについて職員間で話し合いの機会を設けることで、多種多様なプログラムを行うことが出来ていた。また、毎月のニュースレターでプログラムについてお知らせしているため、様々なプログラムを用意していることを各ご家庭にもご認識いただいていた。

○改善点

- ・昨年度よりも、様々な活動プログラムを用意することが出来た。その一方で、課外活動や調理活動が土曜や祝日に集中することがあった。長期休みなどを活用し、バランスよくプログラムを実施出来るようにする。
- ・外部機関との関わりやブログの更新が少なかった。教室のことを多くの方に知ってもらうため、地域連携やブログの更新を行う必要がある。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・多様な活動プログラムに、すべての利用者が参加できるよう、バランスよく企画・実施する。
- ・課外活動を実施し、地域との関りを深める。
- ・ブログを更新し教室のことを多くの方に知っていただく。

○1年間で取り組む具体策

- ・活動プログラムについて、前月の10日までに翌月の予定を立てる。すべての利用者が参加できるように活動内容に偏りがないように配慮する。
- ・定期的に課外活動を企画する。地域の施設や資源を調べ、活動先のピックアップを行う。地域の方との関りが持てる内容を検討していく。
- ・ブログの更新担当者を決めて、月に一度更新できるようにする。管理者が更新状況を確認し、更新が滞らないようにする。